



この美しい自然を守ることが、**人類を救う!!**

目次

- 「正常性バイアス」の罠に、嵌ってはならない、、、……………ページ 1
岐阜環境カウンセラー協議会 理事長 堀江 孝男（環境カウンセラー）
- 福島支援プロジェクトに参加して……………ページ 3
恵那エネルギー環境研究所 丸山晴男（環境カウンセラー）
- 私の活動報告……………ページ 6
岐阜大学 CCSC 地域協学センター特認准教授 小林 由紀子（環境カウンセラー）
- 第9回エコアクション21 全国交流研修大会 in 松山に参加して……………ページ 7
エコアクション21 審査人 鈴木 敬彦（環境カウンセラー）

「正常性バイアス」の罠に、嵌ってはならない、、、

岐阜環境カウンセラー協議会

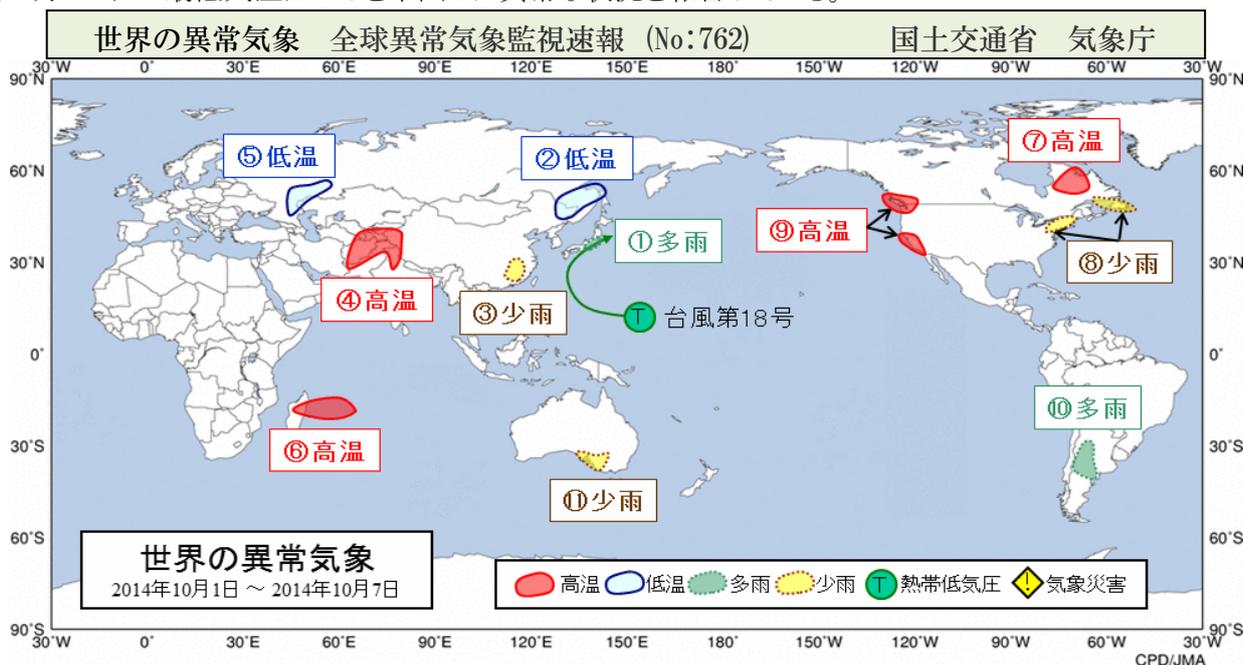
理事長 堀江 孝男（環境カウンセラー）

昨年の夏、日本列島は記録的な猛暑と、度重なる大雨といった異常気象に見舞われた。8月中旬には、高知県の四万十市で「最高気温が41.0℃」を記録し、国内最高記録を更新し、7月末には山口と島根を襲った豪雨、8月初旬に秋田と岩手を襲った豪雨では、気象庁が「これまでに経験したことの無いような大雨」と、最大限の警戒を呼びかけた。その警告も記憶に新しい中、今年の6月末、広島県での6・29豪雨、8・20豪雨に起因する土砂崩れ災害により、100名近い犠牲者が出たことは記憶に新しい。

これらの現象を「異常気象」と呼び、気象庁による定義では、「30年に1回起こる程度の珍しい気象」を指すようだ。異常気象の原因は、主には大気や海の不規則な自然の変動が原因とされ、特に「地球温暖化」が主因と云われている。

この現象は当然の如く日本だけでなく、全世界で発生しており、国土交通省・気象庁の直近の報告では「猛暑の処があれば、冷夏の地もある」と報告しており、直近では、英国からポーランド共和国までの間で、上空の寒気の影響を受け首都ワルシャワは、今年9月25日の日平均気温が、平年値より約5℃低い約12℃と

なり、又、ドイツ西部のデュッセルドルフでは、20日と24日の日平均気温が平年値より約6℃低い約12℃となり、9月20日の最低気温は7℃を下回った異常な状況を報告している。



このような、極端な高温や大雨の頻度が長期的に増加する「異常気象」の背景には、地球温暖化が関わっているとみられ、地球温暖化により、長期的な傾向としては地球の平均気温上昇が起因し、地域ごとの気温は不規則に変動しながらも、極端に暑くなる頻度が徐々に増えてきた。

今更と思われる方も多いと思うが、地球温暖化は二酸化炭素などの温室効果ガスが大気中に増加することであり、現在、「大気中の二酸化炭素濃度は400ppm」に達しており、これは産業革命前の値、「280ppmの凡そ4割の増加」といえる。

この原因が、人間活動による二酸化炭素の排出であることは間違いなく、一方、世界の平均気温は、産業革命前から0.8℃程度上昇しており、1980年から90年代には特に気温上昇が顕著で、今世紀に入って気温上昇が鈍っているが、その理由の大きな部分は、熱が海の深層に運ばれているためと考えられ、逆に、今後、海の深層の熱が地表付近に出てくると、再び顕著な気温上昇が生じることになると云われている。

又、異常気象は今まで日本に無かった亜熱帯地方に似た「熱帯病」の発症も始まった。

今年8月には、国内で「デング熱」に感染した患者が確認されたし、熱帯・亜熱帯などに分布する毒クモ「セアカゴケグモ(背赤後家蜘蛛)」による発症報告も出始めた。「まさか、、、」と思いたいが、世界中の熱帯・亜熱帯地域で流行している「マラリア」も日本で発症されるのではないかと危惧されだした。

「異常気象」に関するコラム・テレビ報道の中で、日本は亜熱帯地域へと向かいつつあり、2050年頃の最悪の想定では「今年の紅葉は12月末、クリスマスの頃でしょう、、」という気象予告を聴くことになるだろう、と言っていたが、「まさか、、、」では済まないことに慄きを感じる。

「まさか、、、」「そこまで酷くはないだろう、、、」「ここは大丈夫、、」などと異常事態、又は異常事態への警告が出されても、それを正常の範囲内として捉え、心を平静に保とうとする心の働きを、「正常性バイアス(normalcy bias)」と呼ばれる。

この言葉は、社会心理学、災害心理学などで使用されている心理学用語であり「偏見、先入観」といった意味であり、正常性バイアスを「地球温暖化による影響」に対して論ずるとき、「まさか、、、」「そこまで酷くはないだろう、、」「ここは大丈夫、、」と、頭では事実を理解しながらも、未だそれを正常の範囲内としてとらえ、心を平静に保とうとする心理となるだろうが、この働きの度が過ぎてしまうと、本当に危険な場合、それを異常と認識せず、危機回避の為の対応が遅れてしまうことになる。

避難が必要となった人びとや避難を誘導・先導すべき人たちに正常性バイアスが働いたため、被害が拡大した災害は多いと専門家は指摘する。

「異常が発生した、若しくは警告が出た」時には事実を客観的に受け止め、冷静に行動することが極めて大切であり「正常性バイアス」の罠に嵌ってはならないのである。

今年4月に気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、最後の第3作業部会報告書を公開したが、その中で「温暖化は人為的なものであるとほぼ確定」し、適切な対策を取らねば「世紀末の100年後には4℃に達する」と極めて厳しい警鐘を鳴らしている。

環境省も6月初旬に「温暖化対策を取らないと今世紀末には平均気温が4.4℃上昇」と発表した。我々はいこれらの警告を真摯に受け取り、真剣に取り組まねばならない。

当・環境カウンセラー協議会の会員は、「市民部門 & 事業所部門」を問わず、その対策・方法は違えながらも、「健全な山・川・海」「美しく健全な地球」の維持管理に努め、終局的には地球温暖化、ひいては「異常気象の発生防止」の指導に全力を傾けるべき使命があり、1人でも多く、1社でも多く「美しく健全な地球」への維持管理対策に向かって頂く為の姿勢を、再度確認せねばと思います。

そのためには掛け声だけでなく、新しい知識・新技術らを基にした知見に基づき、具体的提案を掲げて指導に向かい、努々、「未だ大丈夫、、、」とか「そこまではならないだろう、、、」という「正常性バイアスの罠」に陥らず、健全な環境維持推進の人の輪を一層強力に広げねばと思うのであります。

福島支援プロジェクトに参加して

「福島に出かけて、何を見て、何を感じたか、講座の果たした役割は何か」

恵那エネルギー環境研究所

足利工業大学総合研究センター客員研究員

丸山晴男(環境カウンセラー)

参加した福島支援プロジェクト

プロジェクト名:平成26年度放射線と市民の健康講座体験型学習会 2回目

年月日 :2014年8月1日

場所 :福島市保健福祉センター

対象者 :福島市内小学生 4,5,6年生

主催 :福島市,福島市保健福祉センター, 除染情報プラザ(環境省), 徳島大学福島支援プロジェクト

I. 福島支援プロジェクトの要請を受けて

急な福島支援プロジェクトに参加して欲しいとお話があり、まず感じたことは、福島は恵那から遠いと思っていました。東北までは半日以上かかり、とても日帰りでは無理なと思っていました。日程や諸事情を含めると無理で、お断りしようと思っていました。しかし、一緒に支援活動に行かれる核融合科学研究所の佐瀬卓也先生は、福島県の会津若松ご出身で、恵那からでも日帰りは十分できますので、なんとか都合をつけて福島に一緒に行きましょう。そして、福島の子どもたちに、元気をつけるため「わくわく感を体感させ、科学の楽しさ」を何とか伝えてほしい。ぜひ行ってくださいませんか。と強い要請があり、私のような者が行っても大したことはできないと思ったのですが、「エネルギー環境」の側面から、プログラムをつくり、福島支援プロジェクトに参加しました。

II. 岐阜県恵那市から福島県福島市に向けて

現地での活動は、準備を含め4時間ほどです。(現地準備1時間、講座活動2時間、片付けその他1時間)、それでも正味滞在したのは、5時間ぐらいでしょうか。

恵那駅 6:24→名古屋 7:39, 名古屋(のぞみ)7:48→東京 9:30, 東京(やまびこ)9:40→福島 11:13(4時間 49分:距離 707Km), もっと早く到着するものもあり[恵那 6:07→福島 10:46] (4時間 39分:距離 707km) 東京→福島(最速タイプ:新幹線やまびこは, 東京→大宮→福島 1時間 22分)こんなに速いとは思いませんでした。時々研究関係で、足利工業大学(栃木県足利市)に行っていますが、一般道 300Km(5時間), 高速 350Km(4時間)かかり、いかに新幹線タイプが高速であることが分かります。東京電力が、原子力発電所を福島に作った理由の一つも分かったような気がしました。当時は、新幹線もなく時間はかかったと思いますが、現在は、東京→福島がとにかく時間的に近いのです。しかも停車駅も少なく、「やまびこ」は、スピードも最高速 320Km/h で、「のぞみ」よりも速いのです。恵那に帰ったのは、23 時前後だったと思います。

III. 福島到着時に感じたこと

福島に着き、駅付近で食事を取り周りを見渡しましたが、その時は、特に変わった感じもしませんでした。恵那から見ると大都会です。ご一緒した佐瀬先生によりますと、「やっと表面上は落ち着いたように見えるだけです。現実には厳しく、とても復興とは言えません。」と言われました。福島県より外部に避難している人が相当数おられ、もちろん岐阜県にも何人かおられるそうです。よく見ると、所々に、放射線計測の値や、放射線計測に関する情報などがあります。福島第一原子力発電所(福島第一原発)から、おおよそ50Kmほどの距離があり、直接放射線の影響があるのです。(放射線各種情報については、別の機会があれば、そこで述べたいと思います。)

IV. 福島支援プロジェクト講座:体験型学習会にて

福島支援プロジェクト講座・体験型学習会の会場の福島保健センターには、放射線健康管理室、放射線計測、放射線計測機器、各種情報があります。特別プレイルーム(建物の中で遊ぶ部屋:日によっては、外の放射線が多く、心配な保護者が子どもを外で遊ばせない。主に、甲状腺がんなどを心配している。)今回のプロジェクトは、体験型学習会(小学校4~6年生)と医療専門家講座(保護者対象)の2本立て、同時進行。最後に保護者が体験型学習会会場に集合しまとめをしました。

これらの様子を見て、地震や津波は非常に大変だが、一定時間で止まる。しかし、放射線関係(核分裂)は、何年も続く事を改めて感じました。理論や知識として、放射線化学などの学問にほんの少し触れた程度で、少しは知識としてあり、恵那エネルギー環境研究所でも自然放射線を計測しており、自然のものは、いつもそこにあることは知っていたのですが、人工的に使っているもの、即ち、原発燃料としては、一歩間違えばなんともならない事が改めてよく分かりました。

原発は、日本の立地環境(地震・地球レベルでの地学的な環境など)、技術、最終処理技術・場所、人的心理・住環境など各種の条件から、日本には合わない、直ちに止めるべきだと思いました。電力はどうしたらよいかと言う事ですが、すぐには結論が出ません。よく自然エネルギーでといわれますが、自分が研究や実践をやっていて、そんなに簡単ではありません。しかし、可能性はあり伸ばしていかなければなりません。対策としては、日本が二次変換エネルギー、電気エネルギーなどに頼りすぎている点。そして、エネルギー利用の閾値がまだまだ高いと言う事です。高効率の機器、電気エネルギー以外のエネルギー利用、超省エネ効率化、利用側のエネルギーベストミックス、昭和の時代スタイルを一部導入など各種の方法があるかと思います。これについては、また機会があれば述べたいと思います。

現地に入り、各担当者の方と打合せなどをしましたが、事前にメールで何度もやり取りしました。その印象ですが、「福島の方々は、親切、誠実、ゆったりあたたかい、人を大切にする。……」などを感じました。本当に親切に対応していただき、私のような者に対して、自然体で、本当によく対応してくださり、感謝しています。

講座対象は、福島市内の小学生(4～6年生)です。子どもの対応は、仕事柄なれているというか、日常的にやっている事なのですが、まじめにしかも興味深く取り組んでくれました。子どもは何処でも同じと言いますが、その構成メンバーにもよりますが、福島の中央の子どもたちは、まじめで、おちついていました。実際に行った大きな柱は、以下の通りです。

ステップ1 光って見える？ 見えない？ 放射線は見える？ 見えない？

◇ 光と放射線、その動きと力(エネルギー)を観察してみよう！

ステップ2 私たちの周りにもエネルギーが！

◇ 果物やジュースと金属の板で、電池を作ってみよう！」(化学電池の作製)



ステップ3 身近なエネルギーと自然エネルギー

◇ 身近なエネルギーにはどんなものがあるのでしょうか。

・自然エネルギー:太陽光発電, 太陽熱エネルギー(ソーラークッカー), 風力発電
これからは、いろいろな自然にやさしいエネルギーを作り出して、省エネをしよう！



V. 体験型学習会を終えて

私の講座は、放射線専門家の佐瀬先生とのコラボレーションです。放射線の専門の部分を佐瀬先生が担当され、紫外線 UV, 果物電池など(各種化学電池)を担当し、最後に自然エネルギー・環境問題解決とその方向の一つを指し示したわけです。

子ども達には、科学のおもしろさや、原発に頼らないエネルギー利用、これからの方向についてのごく一部を示す事ができたこと。子どもたちを「少しでも元気にしてほしい。わくわくさせてほしい」との現地からの願いがありましたが、その一部の元気エネルギーの提供ができていれぱうれしく思います。

VI. まとめ:福島支援プロジェクトに参加して感じたこと

今まで十分述べてきたのですが、まとめとして、私が感じた雑感を追記したいと思います。

1. 原子力発電の事故で多くの人が苦しんでいる事です。よく原発のある場所は、〇〇の恩恵を受けているので、△△であっても仕方がないとか。と言う認識から、原発はとにかく反対とか、色々な見解や考えがあります。しかし、政府や原子力発電の製造その他のメーカー(ここでは差し控えます。)などは、絶対に安全、6つの壁があるから……と言ってきました。さらに、関係のテキストなども作り、教育分野まで入っていました。ところが、現実問題はそうではありません。このことについては、また機会があれば述べます。即ち、小さいときから大人まで、日本が「放射線教育」とその関連教育があまり行われていなかったことが原因の一つなのです。現在もあまり行われていません。いずれにせよ、日本においては、原発を止めていかなければいけないと強く思いました。
2. 環境カウンセラーとしては、何もできていないのですが、エネルギー環境の研究・教育に携わってきた者として、少しでも役に立つことがあれば、社会貢献のようなことが出来たならば、大変うれしく思います。子どもや保護者そして関係者の皆様に感謝のお言葉をいただき、それだけで行った価値は十分あったのではないかと考えています。
3. 福島県の方は、親切で誠実、あたたかさを感じて、土地によってその風土が色々あることをあらためて感じました。岐阜県においても、福島のよさを取り入れられたらと思いました。
4. 福島は東京に非常に近く、恵那から名古屋に行く感覚に近い時間であることに驚き、なるほど電力問題で福島に関係性を持たせたことが認識できました。
5. 政府や大手メーカー、行政などが説明していることが、必ずしも正しいことばかりでないことです。今は、書籍関係、インターネット関係、専門研究論文関係も手に入れることが出来ます。それを入手し、自分な

りに勉強し、各種専門家の情報を得て、多面的・多角的に物を考えて、必要に応じて皆様に情報提供していかねばいけないと思いました。

6. エネルギー環境の研究・教育・実践を継続し、自然エネルギー(≒再生可能エネルギー)啓発と拡大を図るとともに、超省エネ実践の提案をしていきたいと強く思いました。
7. 一環境カウンセラー、エネルギー環境の研究・教育をする者として、常に前向きに取り組み、非常に微力で、目に見えるような活動は出来ないのですが、ほんのほんの少しでも役に立つことが出来るように、今後も努力していく決意を強く持ちました。

まだまだ、書きたいことはありますが、今回の福島支援プロジェクトに参加したことを自分なりに捉え、まとめてみました。読んでいただくことができ、何か伝わるものがあれば、この上なく幸せに存じます。直接要請および同行させていただいた核融合科学研究所の佐瀬卓也先生、参加及び執筆の機会を与えていただいた各関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

私の活動報告

岐阜大学 CCSC 地域協学センター

特認准教授 小林 由紀子 (環境カウンセラー)

環境カウンセラーとしての私の活動は環境教育・環境学習です。

1つ目は、2007年より岐阜県より委任された環境学習推進員として学習プログラムのアドバイザーとして小中学校の年間プログラムに関わっています。省エネ、3R、水環境などのテーマに合わせて授業内容の精査、講師派遣などニーズに対応しています。

学校にでは、総合的な学習の時間では学習の単元や教科の進み具合に応じてプログラムを組んでいます。昨年度より環境省のESDを学習する岐阜県代表の小、中学校のサポートを行い、又、各地のエコクラブの活動サポートでクラフトなどを企画しています。

2つ目は市民向けの環境活動の啓発で、4年前から岐阜新聞に「ぎふ発・省エネ生きる技」と題して2週間に1度コラムを書き始め100回を超えました。

又、岐阜市の環境講座のほか、県内の自治体の単発の環境講座や笠松町や愛知県刈谷市の6~8回の連続講座を行っています。テーマは地球温暖化防止、省エネルギー・新エネルギーについてなどエコの観点から見た実用的な講座です。難しいことを解説するのではなく環境についての「新聞の記事」を読めることを目指しています。

今年度は岐阜市地球温暖化防止委員会の企画で「緑のカーテン講座」で省エネの講座を公民館で開催することになりました。今年で3年目の企画ですが、栽培講座やネットや種の配布などの工夫のある講座で毎年人数と開催回数が増えています。毎年、同じ公民館からの要望があり、以前受講した方のために同じテーマの省エネルギーでも少しずつ視点と内容を変えています。

3つ目は、「水環境学習の体系化」を目指し、河川財団から助成金を頂き水環境学習の体系化事業地域と学校を結ぶ「川を知ろう、川から学ぼう」と題し、4年目の活動になります。水質と生き物を統合して教えるためには、学習を学年や教科の内容に即し、効率的、体系的に学ぶプログラムが必要です。学習を「導入授業」「水生生物調査・生き物探しなど体験授業」「まとめの授業」の3つの授業を組み合わせ、パッケージ化を行い学校に提供しています。学校は、「総合的な学習の時間」の短縮により水の授業にかける時間数が少なかったが、「学習の体系化」によって授業の質が向上したと評価しています。体系化を意識したゲームやクイズ、クラフトなどわかりやすい教材を開発し、子ども達

にとって、楽しく理解できる点に主眼を置きました。地域を流れる川を対象に様々な学習の展開に即した応用プログラムを作って教材を提供しています。この体系化事業は河川財団の助成を受け、2年連続で優秀成果表彰を頂きました。

P T Aの環境学習から始めた活動は今年で20年になり、子どもたちと一緒に学べられて「すごく楽しい」活動でした。3.11の震災以来、エネルギー問題が身近になり市民の意識が変わったと感じています。市民の方も子どもと同様に「環境」の話を興味津々で聞いています。3年前より岐阜大学未来型太陽光発電システム研究センターの子どもの科学教室の担当の企画、運営の業務を行っていました。昨年度より岐阜大学が文部科学省より「地（知）の拠点」整備事業（大学COC事業）大学として選定されたのを機に、同大地域協学センター特任准教授となり、「地域に溶け込む大学」を目指して活動を行っています。

第9回エコアクション21全国交流研修大会 in 松山に参加して

エコアクション21 審査人

鈴木 敬彦(環境カウンセラー)

エコアクション21 中央事務局の一般財団法人持続性推進機構 (IPSus) 主催、環境省等の後援により、エコアクション21 (EA21) 全国交流研修大会が、毎年開催されます。昨年は、岩手県北上市で、そして今年は愛媛県松山市で開催されました。来年は、10周年を迎え、初めて東京での開催が予定されています。

「四国から発信しよう、エコアクション21 ～審査人は、何を助言・提言していくか～」をテーマに掲げ、北は北海道から南は沖縄まで、400人を超えるエコアクション21審査人や地域事務局員が参集し、次のように開催されました。

・開催日時:平成26年10月24日(金)～25日(土)

・開催場所:松山全日空ホテル

▶ ノーベル賞受賞者が2人も出た愛媛県

会場の松山全日空ホテルは、松山市の中心部にある松山城の近くの繁華街にあり、JR松山駅から路面電車で約15分、途中、路面電車から見た愛媛県庁には「ノーベル賞受賞おめでとう……」の大きな垂れ幕。中村修二氏のご出身は徳島大学で隣の県、愛媛県との関係は？と思ったら、生まれは愛媛県、さらに大江健三郎氏も愛媛県の生まれ、愛媛県はノーベル賞受賞者が2人も出た県なのです。

▶ 司馬遼太郎「坂の上の雲」の秋山兄弟と正岡子規生誕の地・松山市

松山市は、人口50万人を超える中核市。市街地のビルは高くとも10階程度までで高層ビルはなく、繁華街から一步路地に入ると歴史を忍ばせる家屋が並び、しっとりと落ち着いた街です。NHK大河ドラマにもなった司馬遼太郎「坂の上の雲」の秋山兄弟と正岡子規生誕の地であります。

▶ 環境モデル都市・松山市

第1日目の初めに、松山市の環境モデル都市について紹介がありました。政府は、我が国が目指すべき低炭素社会の姿を具体的にわかりやすく示すために、低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジしている都市を環境モデル都市として選定していますが、松山市は、その環境モデル都市で、太陽光エネルギー活用は国内トップクラス、一人当たりのごみの排出量は7年連続減少、



第9回エコアクション21全国交流研修大会 in 松山

都市機能を集中させ路面電車と自転車の利用促進等、環境先進都市です。そういえば、街を歩いていると、前から後ろから自転車が走ってきて、自転車が 많이 ことを実感しました。

➤ **審査人は、何を助言・提言していくか**

四国4県のEA21認証・登録事業者469社へのアンケートの結果、審査人への要望として最も多かったのは、アドバイスや情報の提供でした。適合性審査だけでなく、受審事業者に役に立つ有効性審査が求められています。今回のメインのテーマ「審査人は、何を助言・提言していくか」について、6～7人のグループに分かれてディスカッションが行われました。審査人によって考え方が異なり、結論がなかなかまとまらず、与えられた時間があっという間に過ぎました。岐阜県内では審査人と地域事務局ぎふ事務局員の10人が集まる会合を定期的を開いて、考え方の溝を埋める活動を進め、その成果が少しずつ出ていると思います。今回は、その全国版ともいえ、範囲が広がるほど考え方に相違があることを感じました。

➤ **環境活動レポートはどうあるべきか**

EA21では、企業の社会的責任(CSR)の一環として、環境活動レポートの作成を必須としています。CSRは、特に大企業に対して求められていますが、バリュー・チェーン、サプライ・チェーンのつながりによって中小企業にも及んでくる。環境活動レポートはそのために有効な報告書であることが必要で、またそのためには審査人の有効な審査が求められると、EA21制度の策定等に長らく関わってきたNPO法人サステナビリティ日本代表理事後藤敏彦氏の講演がありました。

➤ **今後のEA21**

これまで二酸化炭素削減に向けた取り組みが消極的だった米国はシェルガスによって目途が立ち、中国はセメント工場の廃止を進めており、地球温暖化防止に世界が動き出しているという。そのような中で、EA21に対する期待は大きいですが、EA21の認証・登録事業者数は8,000件を超えたものの、現在は横ばい状態です。制度の課題も多くあり、EA21中央事務局や環境省が制度の改革に取り組んでいて、EA21中央事務局長森下研様から次のようなお話がありました。

- ① 来年1月から、EA21のロゴマークに、環境省のネームが入る見込み
- ② 来年にガイドラインの改定(有効性審査、要求事項の緩和等)がある見込み
- ③ 来年1月から、EA21基本管理システム(事業者や審査人の情報等のデータベース)の運用開始
- ④ 来年2月に、EA21の10周年記念式典が、全国数か所で開催される予定
- ⑤ 制度の改革は、なかなかまとまらないが検討を進めている

➤ **所感**

本報の最初で当協議会理事長が述べている「美しく健全な地球」を守るために、EA21に取り組んでおられる多くの事業者様が、取り組んでよかったとご満足いただけるよう、私たちEA21審査人は、なお一層の努力をしなければならないことを痛感したEA21全国交流研修大会 in 松山でした。

以上

<p>・NPO法人 岐阜環境カウンセラー協議会 住所: 〒500-8357 岐阜市六条大溝 4-12-6 (財)岐阜県環境管理技術センター内3F 電話:058-272-0408 FAX:058-272-0408 E-mail:gifu-ec@nifty.com URL:http://www.gifu-ec.jp 窓口担当者: 鈴木 敬彦 事務局長</p>	<p>・エコアクション21 地域事務局ぎふ 住所: 〒500-8357 岐阜市六条大溝 4-12-6 (財)環境管理技術センター内 3F 電話:058-272-0408 FAX:058-272-0408 E-mail:ea21gifu@nifty.com URL:http://www.gifu-ec.jp 窓口担当者: 小倉 竹治郎 事務局長 加藤 邦夫 事務局次長</p>
---	--